

## 平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

プログラム名	女性の再チャレンジ支援プログラム		
事業名	潜在看護師再チャレンジ講座実施事業		
法人名	社団法人泉大津市医師会		
学校名	社団法人泉大津市医師会附属看護高等専修学校		
代表者	会長 塩田 正明	担当者 連絡先	西川洋子 Tel 0725-32-0660

### 1. 事業の概要

潜在看護師の再就職の促進を図る為、平成20年8月に大阪府医師会後援のもと、文部科学省の委託事業として、府下8つの医師会立看護学校が主催となり、潜在看護師再チャレンジ講座を開催することにした。開催時期は、場所が看護学校であることから夏休み中の8月に行くこととした。また、時間帯も育児や子育てへの配慮として午後1時～4時までとし、参加者への利便性に考慮した。

開講式と閉講式は全校合同で行いそれ以外は各医師会看護学校での講義と技術演習を行った。なお、受講者にはそれぞれ受講前後にアンケート調査を行った。

### 2. 事業の評価に関する項目

#### ①目的・重点事項の達成状況

本講座に参加した受講生を対象とした。受講前は51名、受講後は49名である。受講前アンケートは①年齢②免許の種類③開講情報の入手方法④潜在期間⑤潜在理由(複数回答)⑥受講理由(複数回答)⑦再就職希望⑧再就職への不安(複数回答)⑨再就職のきっかけ(複数回答)⑩再就職希望条件で、受講後アンケートは①PR方法②時期③期間④時間⑤場所⑥講演・講義内容⑦技術演習⑧施設演習(1日目、2日目、3日目、)⑨修了証書である。

#### 1)受講前調査

- ①受講者の年齢(図1) 30才～40才代がほとんど、とくに40才前後が半数を占めた。
- ②免許の種類(図2) 36名(70.5%)准看護師15名(29.4%)であった。
- ③開講情報入手方法(図3) 市の広報誌が46名(90.2%)ともっとも多かった。
- ④潜在期間(図4) 10年以上～20年未満が多い。
- ⑤潜在になった理由(図5) 子育て(27名)妊娠・出産(17名)結婚(19名)が主な理由であった。
- ⑥受講理由(図6) 再就職希望(29名)、知識・技術の再認識(24名)が主な理由であった。
- ⑦再就職の希望(図7) 98%が再就職希望であった。
- ⑧再就職への不安(図8) 看護技術(14名)が最も多かったが、様々であった。
- ⑨再就職のきっかけ(図9) 約半数が、子育て終了のためであった。
- ⑩再就職の希望条件(図10, 11) 常勤より非常勤、日勤希望が多く、病院より診療所希望が多かった。

## 2) 受講後調査

- ①チャレンジ講座の総合評価(図12) 大変満足とやや満足が36名(73.4%)であった。
- ②講座開催のPR方法(図13) よい、普通が31名(63.2%)であったが、PR不足、掲載がわかりにくいとの意見が11名あった。
- ③講座の開催時期(図14) よい、いつでもよいが34名(69.3%)であった。
- ④講座の開催期間(図15) よい、普通が33名(67.3%)であった。
- ⑤講座の開催時間(図16) よい、普通が40名(81.6%)であった。
- ⑥講座の開催場所 開講式・閉講式(図17) よい、普通が25名(51.0%)であった。
- ⑦講座の開催場所・業者の技術演習(図18) よい、普通が35名(71.4%)であった。
- ⑧講座の開催場所・各看護学校内講義(図19) よい、普通が42名(85.7%)であった。
- ⑧講座の開催場所・実習施設(図20) よい、普通が40名(81.6%)であった。
- ⑨講演・講義の内容－医療の動向について(図21) よい、普通が36名(73.4%)であった。
- ⑩講演・講義の内容－看護の動向について(図22) よい、普通が36名(73.4%)であった。
- ⑪講演・講義の内容－ストレスマネジメント(図23) よい、普通が32名(65.3%)であった。
- ⑫各看護学校での講義－看護の現場を知る(図24) よい、普通が39名(79.5%)であった。
- ⑬各看護学校での講義 リスクマネジメント(図25) よい、普通が39名(79.5%)であった。
- ⑭業者の技術演習(図26) 満足、普通が34名(69.3%)であった。
- ⑮各看護学校での技術演習(図27) 満足、普通が41名(83.6%)であった。
- ⑯病院実習(図28) 満足と回答した受講生は全体の69.6%であった。
- ⑰修了証書(図29) ある方がよいが31名(63.2%)なくても良いが10名(20.4%)であった。  
なお全体では「実習や、演習の時間がもっと欲しかった。」「マスメディアを通じての募集がないため、もっとPRして欲しい。」などの意見があった。

### ②事業により得られた成果

今回のアンケート調査により潜在看護師再チャレンジ講座受講者の①2/3は看護師②40才前後が半数強③開講情報の入手方法は市の広報誌④潜在期間の多くは5年以上20年未満⑤潜在理由の多くは結婚、妊娠、出産、子育て⑥全員が再就職希望⑦再就職条件は非常勤・日勤希望が多く、勤務先は医院や診療所希望が多い。年齢が30歳代から40歳代であること、潜在となった理由が結婚、妊娠、出産であること、再就職希望勤務場所や勤務形態が病院より医院・診療所希望が多い。  
このことは医師会が中心となった再チャレンジ講座開催の成果と考える。

### ③今後の活用

昨今の社会情勢をみても、潜在看護師の再就職支援活動は今後も必要なことであり今回の調査内容を検討改善し事業を継続していくことは社会にとって大いに役立つと思われる。

### ④次年度以降における課題・展開

受講後調査では講座開催のPR方法が悪いとする回答が49名中11名(22.4%)あった。昨年は市のホームページ、諸施設での掲示等の周知方法も取り入れたが、情報入手方法の大半が市の広報誌とのアンケート結果を踏まえ、今年度はマスメディアを通じての募集を行わず、市の広報誌中心にPRをしたが、その掲載形態・掲載から受講日までの期間が短い、ということに起因していると思われる。上記のことが昨年に比べて受講者数減少となったと推測される。以上のことから、講座開催のPR方法やPR時期についての検討が今後の課題と考える。医師会立看護学校での講座開催というのは、受講者にとって利点も多く、ほとんどの受講生は毎日熱心に来ており最後まで受講していた。このことから地域に根付いた潜在看護師の再就職支援活動は大変意義あるもので、今後も検討、改善し継続していくことが必要と考える。

## 3. 事業の実施に関する項目

看護師不足問題に対し潜在看護師の再就業の促進を図るため、この8月に大阪府医師会後援のもと、府下の8つの医師会立看護学校が主催となり、潜在看護師再チャレンジ講座を開催した。初日は全校合同で開講式と2講演「医療の動向、看護の動向」を行い、3日目以後は各看護学校に分かれて講義と技術演習をそれぞれ2日間行った。さらに4日間に渡って協力病院にて輸液、ME機器の取り扱い等の実習を行った。最終日には合同で閉講式を挙行し、ストレスマネジメントの講演後に本講座の修了証書を発行した。

各校の講座日程表

	時 間				泉大津	泉佐野	河内長野	岸和田	堺	高槻	東大阪	淀川
	13:00	14:00	14:40	14:50								
1	開講式 講演「医療の動向」「看護の動向」				8/1 (大阪府医師会館)							
2	<看護の現場を知る> ・看護倫理 ・コミュニケーション ・患者心理について				8/5	8/5	8/4	8/6	8/5	8/7	8/6	8/5
3	<リスクマネジメント> 医療・看護事故、ヒヤリハット事例について 院内感染予防、薬について 他				8/6	8/4	8/5	8/5	8/7	8/8	8/6	8/8
4	<看護技術演習> ボディーメカニクス、体位変換 救急蘇生法、AED機器の使用方法 他				8/26 (泉大津)	8/26 (泉大津)	8/18	8/26 (泉大津)	8/8	8/20	8/5	8/7
5	<看護技術演習> 静脈注射・輸血トレーニング 医療機器の取扱い (テルモ)				8/8 (岸和田)	8/8 (岸和田)	8/19 (堺)	8/8 (岸和田)	8/19	8/21	8/19 (堺)	8/6 ハンコン
6	<病院見学実習>		(内 容) 病院の概要		8/25	8/18	8/6 柔佛敦康 (学芸)	8/20	8/18 AM	8/22	8/7	8/26 AM
7	<病院見学実習>		病棟の概要・特徴 電子カルテについて		8/7 演習	8/19	8/25	8/12	8/18 PM	8/25	8/7	8/26 PM
8	<病院見学実習>		看護記録について 輸血ポンプ、シリンジポンプの取 扱い、ME機器、吸入、吸引 等		8/27	8/20	8/26	8/22	8/26 PM	8/26	8/8	8/27 AM
9	<病院見学実習>				8/28	8/21	8/27	8/27	8/28 PM	8/27	8/8	8/27 PM
10	講演「ストレスマネジメント」 終講式				8/29 (大阪府医師会館)							
講座受講者(名)計 51名					9	6	7	7	11	7	0	4

(平成21年1月30日現在)

施設名	申込者数			受講者数			修了証発行者数			再就業者数(決定)			再就業予定者数		
	看護師	准看護師	計	看護師	准看護師	計	看護師	准看護師	計	看護師	准看護師	計	看護師	准看護師	計
堺看護専門学校	9	3	12	9	2	11	9	2	11	8	1	9	1	1	2
泉大津医師会附属看護高等専修学校	9	2	11	7	2	9	7	2	9	2	2	4	4	0	4
泉佐野泉南医師会看護専門学校	8	1	9	6	0	6	6	0	6	2	0	2	0	0	0
河内長野看護専門学校	5	4	9	4	3	7	3	2	5	1	1	2	0	0	0
岸和田市医師会看護専門学校	3	4	7	3	4	7	3	4	7	2	1	3	1	3	4
高槻市医師会看護専門学校	4	3	7	4	3	7	4	3	7	1	2	3	3	1	4
東大阪准看護学院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
淀川区医師会看護専門学校	3	1	4	3	1	4	3	1	4	0	0	0	0	0	0
合 計	41	18	59	36	15	51	35	14	49	16	7	23	9	5	14

※ 泉大津医師会附属看護高等専修学校は、受講者9名のうち1名が配偶者の転勤のため府外へ転出。